



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2548号)

令和8年1月20日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ホタルイカ・ハタハタの来遊状況等について (調査船「たじま」による半中層トロール調査結果)

令和8年1月16日に香住沖で漁業調査船「たじま」により、ホタルイカ漁場形成の確認と、トロール試験操業および海洋観測を実施しました。

1. 漁場形成調査

・底びき船は調査海域より深い水深帯で操業しており、ホタルイカ漁場は形成されていませんでした。

2. トロール試験操業結果59

・半中層トロール網(袖先間隔17m、網高さ8m、袋網16節、モジ網240経カバーネットあり)を使用しました。
・香住沖の水深およそ240mと225mの2か所で曳網しました(3ノット、30分、E曳き)。

＜ホタルイカ＞

・入網量は240mで0.3kg/網、225mで0.1kg/網と非常に少なく、前年をさらに下回りました。(図1、表1)
・平均外套背長(胴体の長さ)は48～49mm前後で、平年をやや上回っていました。(図2)
・メスの割合は5～19%とまだ少なく、オスから精子を受け取ったメスはいませんでした。
・群れの性状は来遊初期の様相を呈しており、現時点での来遊水準はまだ低いと考えられます。

＜ハタハタ＞

・いずれも入網は0.4kg/網で、前年を上回ったもののごくわずかでした。(図1、表1)。
・2歳魚(体長140～160mm)が主体で3歳魚(同170mm以上)と1歳魚(120mm未満)がわずかに混ざりました。

＜餌料生物(カバーネット)＞

・両種の主要な餌である小型甲殻類は前年並みに採集されましたが低水準でした。いずれもツノナシオキアミが主体でした。

3. 海洋観測と魚探収録

・水深175、200、225、250mでの海洋観測とその間の魚探収録を行いました。(図1)
・表中層の12℃以上の水が沿岸ほど厚く分布し、水深180～230mの海底は前年より高めとなっています。(図3)
・キュウリエソ(ギンギラ、ギンジ、ドブ)が主体と見られる濃い反応が水温5～12℃の海底(200m以浅)付近と5～7℃の中層に見られました。操業を行ったそれより深い水深に目立った反応は認められませんでした。(図3)

4. その他

日本海のホタルイカについては近年来遊の不安定化が危惧されており、センターでは状況把握のため、5月にかけて「たじま」によるトロール調査、卵稚仔調査や、沖底

標本船調査を予定しています。実施に際しては極力皆様の操業の妨げにならないよう注意し、かつ速やかな情報提供に努めます。調査へのご理解、ご協力とともに、情報交換についてもよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.html

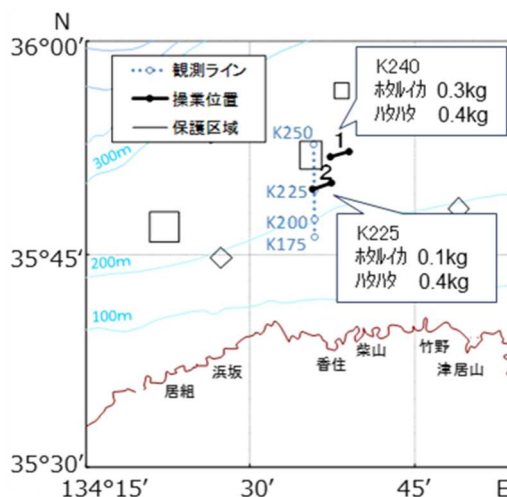


図1 調査海域図と魚種別入網量

表1 入網物の詳細

調査年月日	2026/1/16		(参考;前年)	
	2025/1/14			
海域	香住沖		香住沖	
作業点名	K240	K225	K225	
平均曳網水深(m)	238	226	-	225
入網重量 (kg/網)	ホタルイカ	0.3 0.1	-	0.7
	ハタハタ	0.4 0.4	-	0.1
	ホタルイカモチキ	0.0 0.0	-	0.0
	キュウリエソ	0.0 0.3	-	13.3
	オキアミ・ウミミ (カバーネット)	5.9 4.9	-	5.8
海底水温(℃)	2.3	4.4	-	2.8

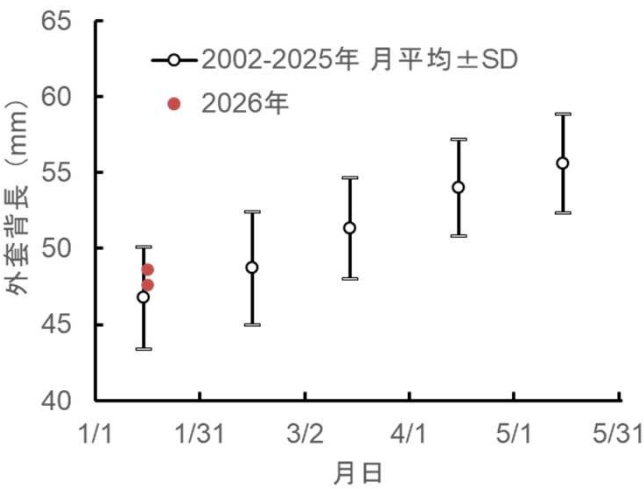


図2 ホタルイカの外套背長

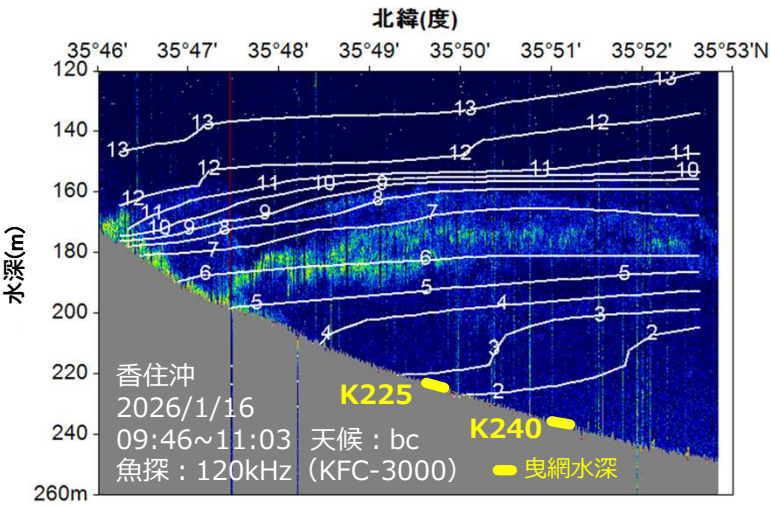


図3 水温鉛直分布と魚探反応